

# 令和6年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 池田 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

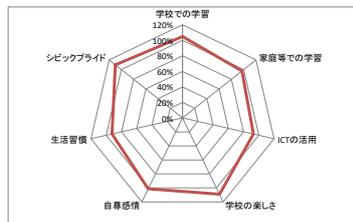
- 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答率	平均正答率	平均正答率	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・【話すこと・聞くこと】【読むこと】【書くこと】において、全国平均正答率を上回っている。 ・問われたことに対して解答しない無解答率は少ないが、漢字を使って書き直す等、言葉の特徴や使い方にに関する問題は、全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較	上回っている
	よくできた問題	文章の要旨を捉え、条件を基に説明する問題		
	努力が必要な問題	文章と目的に応じて、適切な語句表現等を見つける問題		
算数	全体的な傾向や特徴など	・四則演算や図形の面積、割合等の基本的な技能を問われる問題において、全国平均正答率を上回っている。 ・資料を基に、論理的に説明する力を問われる問題において、全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較	上回っている
	よくできた問題	円グラフから、目的に応じた割合を読み取って解く問題		
	努力が必要な問題	資料から、グラフの違いを読み取り、その違いを説明する問題		

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、分らなかった点を見直したりすることで、次の学習に生かすことができている。
・「学校の楽しさ」の項目では、肯定的な回答をしている児童が多く、特に「友達関係に満足しているか」の問いに対しては全ての児童生徒が肯定的に回答している。
・「生活習慣」の項目では、全ての問いに対して、肯定的に回答した割合が低い。特に、「朝食を毎日食べているか」の問いに対しては、肯定的に回答している割合が低く生活習慣の改善への取り組みが必要である。
・「授業においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、英語の学習等でも活用できるように啓発をしていく。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- 教科に関する取組

国語科において、読む力や説明する力がついてきた。しかし、その他の教科において、資料や文章を基に、式や言葉を用いて記述することに課題がある。算数等の教科でも、「学びの質を高める」授業づくりによって、「書く」力を身につけさせていく必要がある。

- 家庭生活習慣等に関する取組

学校に楽しく通っているおり、友達関係も良好だと感じている児童が多い。しかし、生活習慣に課題があり、改善が必要である。委員会活動等を通して、児童の意識を高めるとともに、保護者への啓発を行っていく。